

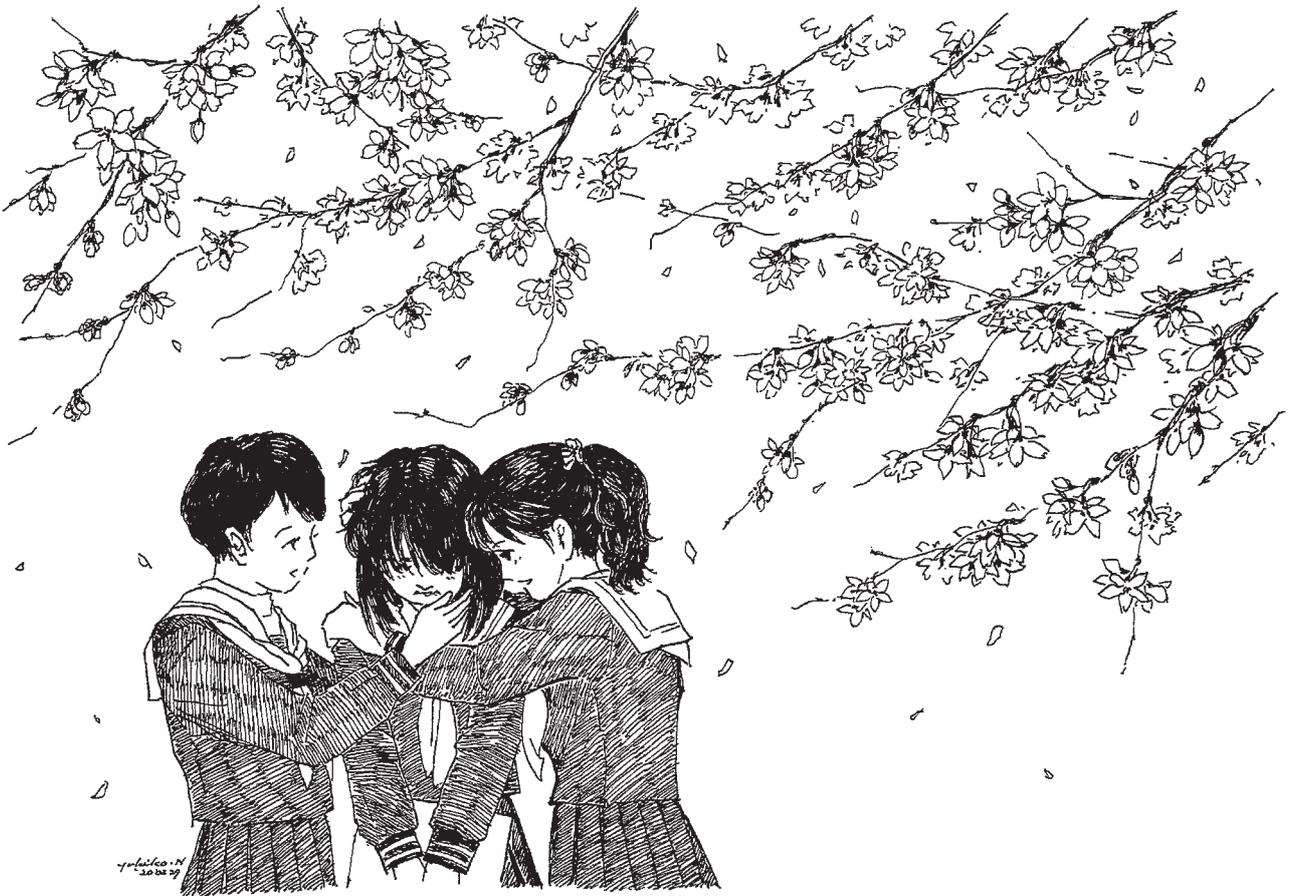
# 光の子



No.194 2020.3.31

●年間聖句 信じます。信仰のないわたしをお助け下さい。

(マルコによる福音書9章24節より)



「今まで そしてこれから」

表紙絵・中島由起子

「その先の春」

紐の緒の大地を打って独楽まはす

沖暗しまがふことなき野水仙

芹なづな利根の南の七つ川

さざ波に乗りて吹かるる残り鴨

さざなみのつづきさざなみ雲雀東風

大利根の菜の花月夜歩くかな

水郷のその先の角曲がる春

落合水尾（「浮野」主宰）

# 現場から…アフターケア⑥

## 光の子どもの家のアフターケア

施設長 竹花 信恵

光の子どもの家で、これまで3桁の「子どもたち」と出会いました。当初、幼い年齢中心の受け入れだったため創立35年となる今、あの時の子どもたちは、30代40代の壮年期を過ごしています。職員である私たちも同じだけ歳を重ね、これからの世代交代の時に備え始めています。

今年度はこの機関紙「光の子」の連載としてアフターケアを報告してまいりました。子どもの入所から退所まで、ずっと同じ職員が担当した月日はとても長く、関わり継続性を大切にしていることはこれから変わりありませんが、アフターケアは担当保育士に限ったことではありません。つながる「誰か」を光の子どもの家として責任をもつてつくっていくことこそ、最も大切なことではないかと考えています。

アフターケアは個人まかせになつてはなりません。その子にとって中心になつていく職員が自然発生的に、それでもやはり必然的にでてくるのが実情です。困ったときに相談できる関係があるかどうか、そこがスタートになります。出会ったときにアフターケアへの道が始まつていると言えるかもしれませ

ん。2歳の誕生日直前に入所した彼女は今一児の母となつています。私が担当保育士だったのは3歳までの可愛さ全開の1年間でした。たった1年ですが忘れることはありません。その後何人が彼女の担当になつたことでしょうか。今現在も彼女を担当した職員が4人ここで働いています。たった1年の担当でおまけに本人はその時のことを「覚えていない」とあっけらかんと言っ

ていましたが、何となく今、「おばあちゃん」の位置にさせてもらっています。そして彼女のようによく育てられたものたちも近くにいてくれます。様々な事情がありま

すが、特別な存在が、一人より、二人、三人と増え続けるような、応援団が増え続けるかかわりこそ継続していきたいと思います。

日曜日以外に毎日行う職員の会議のなかでの報告の中にいつも「アフターケア」の項目をいれ、誰がどのような相談を受けているか「共有」を心掛けています。その子の顔がわかりその子とのたくさんいるからこそ、働きを継続でき

ることを感謝しています。何気なく使い続けてきた言葉、「アフターケア」とは何でしょう。「光の子どもの家を退所したあとに関わりつづけること」以外にまさに人生に関わり続ける覚悟が問われることを思います。「食事に来た」という恒例報告、「結婚予定相手と会う」といううれしい報告もありますが「夫婦関係」「金銭関係」「仕事関

係」の悩み事が続きます。昨日は「心配かけたくなかったけれど、もう限界」と電話があり、こちらでできることは何だろうか、と考えています。どこでどうしているだろうかと思う今心配するメンバーの顔が数人。何ができるだろうか、応えられるのか、あの時こうしていればよかったと心が痛い場面もあります。

援助の仕方についてもその判断でよかったのかどうか、まちがったかもしれないと思うこともあります。負えるリスクだつたらいいのですが、その範囲は見極め判断しなければなりません。今も彼、彼女が無事で歩んでいることを祈ることしかできない毎日を重ねています。

とすべてを負って卒園する一人一人にここが実家としての役割を果たし続けられるよう、これからも応援していくことを伝え続けてまいります。

新しい子どもたちとの出会いとともに、この春もまたアフターケアの子どもたちが加わって行く予定です。

## プリズム

遠藤 恵里香

ついこの間、お正月だと思っていたのに、あれよあれよという間に学校や幼稚園の卒業、卒園を目前に控える季節となりました。

原田家では、今年度小学生1名、年長児2名が卒業、卒園を迎えます。それぞれ卒業制作の諸々や、入学準備など慌ただしく過ごしています。

6年生の林檎は、卒業文集の下書きを必死に書いている最中です。歴代、6年生はこの卒業文集製作に一苦勞します。一生に残る記念品だからなのか、内容から言い回しまで、細かく添削されては書き直し、添削されては書き直し……を繰り返し、やっと6年

間の集大成となる文章ができあがるのです。

林檎は、必死に6年間の思い出を絞り出しながら、他に書くことはあるか、言い回しは変じやないか等こちらに聞きながら慎重に書きすすめています。完成が楽しみです。

卒園を控えた菜々と羊子は、現在小学校入学に向けた幼稚園の宿題に取り組んでいます。幼稚園では硬筆の授業があり、ひらがな、数字、文章の書き取りが宿題に出されます。羊子は文字を書くことが楽しいのか、こちらが言わなくとも国語ノートを持ち出し、ニコニコしながら宿題に取り組んでいます。しかし、菜々は宿題というものに早くも嫌気が差し、こちらが宿題をやるように言っても、「後でやる！」となかなか取り組ませるまでに時間がかかります。それでも、やるとなると集中して取り組んでいます。入学したらどんな小学生になるのかとても楽しみです。

## プリズム

峯寄

舞

外遊びが大好きな5歳の吉

尚。最近、バドミントンで遊ぶことにハマっているらしく、三井さん（昨年12月に加わった児童指導員）とバドミントンで遊ぶ姿が多くみられました。私は外遊びをする子どもたちを見守っていると、吉尚らと一緒に遊んでいた中学生の晴から「舞さんもやろうよ！」と誘われ、「え〜」と言いながらも内心は嬉しく、参加。しかし、吉尚とバドミントンをする際に心配事がありました。以前に吉尚と三井さんでバドミントンをやっている際、上手く打てないことが嫌で怒り、ラケットを壊してしまうことがあったのです。今回も上手く打てなかったら、また怒ってなにかしてしまおうのでは……。と心配しながらも参加。すると早速、吉尚は回ってきた羽を上手く打てないことが！ その時吉尚は「よし！ 俺、もう1回やる!!」と挑戦していました。私の心配も吹き飛び、以前と違う様子に驚きながらも、私や三井さん、晴から「吉尚、凄いなあ！ 諦めないでできるんだね！」などと皆から何気満々の吉尚。何回かラリー

ができるほど、上手に打ち返すことができていました。そんな姿を見て、もしかしたら、将来バドミントンの選手になれるかも……!?と一人ウキウキしてしまいました（笑）

バドミントンで遊んだ後は、同じメンバーでバスケツトボールをして遊びました。晴はゴールを外してもむやみやたらに挑戦していましたが、吉尚は自分の小さめなバスケツトボールで風が強い中、1回1回を慎重にゴールに向けて投じている様子が見られ、ゴールの数も晴より多く見られました。途中、なかなかゴールを決められず、「やっぱ俺、だめだ！ できない」と両ポケットに手を突っ込み、落ち込みます。私や三井さんから「そんなことないよ！ 吉尚はできる！」と言われるとそれまで凄くげんなりしていた顔つきも、みるみるうちにやる気に満ち溢れた顔になり、またゴールに向けてボールを投げる吉尚。ちよつと前までできないことがあると怒ったり、泣いていた吉尚が、こんなにも心も体も成長していて、なんだか感動してばかりの一日でした。

## 鬱々とした冬の季節

老健施設みゆきの丘 施設長 仙道 富士郎

ここ裏日本の東北でも、今年の冬は雪が降らない。「裏日本」という言葉は差別用語だそうだが、あえて裏日本と言おう。この話は、日本海側の東北地方という感じではなく、やはり裏日本という言葉がふさわしいのだ。来る日も来る日も、どんよりとした暗い空から、雪ではなく、雨が降ってくる。毎日気が晴れない。

ふと思ってみる。毎年冬はこんな鬱々としていたのだろうか。いや、そんなことはなかった。冬が好きかと問われれば、そうではないと答えるが、冬に気分的に滅入った記憶はない。しかし、今年の冬は気分が落ち込む。もちろん老人性うつもあるには違いないのだが、それだけではないような気がする。

詮索する間もなく、降ってくるのが雪ではなく、雨である事が気分を滅入らせる理由

であることに気づいた。のそのそと降る雪は、気分を奮い立たせはしないが、それはそれで風情がある。積もった真つ白な雪は、時たま晴天の時などはまぶしく、凜とした気持ちにさせてくれたりする。裏日本の冬の雪は一つの風景なのである。

だが、今年降っている冬の雨は、アスファルトの道路をただ黒く染め、のそのそと降る雪よりもつと寒々とした感じのする街並みを作ってしまった。雪かきもようしない輩が何を言うかと妻に叱られそうだし、豪雪地帯に育った人間として、雪を褒めたたえるようなことを言うつもりもないが、やはり冬の雨は雪よりも重い気持ちにさせるというのは、偽らざる心情である。

気持ちは重いのは冬の雨のせいだけでもないらしい。何十年となく朝のベッドで、毎日小一時間のストレッチを続

け、テニスで若者達を負かすこともあるのに、駐車場から職場までの道すがら、膝折れが起こって、カクツとすることがある。「筋デブ」と自称するくらい筋肉は外から見ると柔らかいのだが、触ってみると柔らかい。要するに筋肉の質が衰えてきているのである。

金曜の夜にお酒を飲むことが多く、土曜には二日酔いの治療のために、近くの温泉によく出かける。温泉につかるまえに、まずはサウナに入るのである。汗がでる。これが、なかなか汗がでる。50滴タオルに落ちてきたらサウナから出ることにしているのだが、最近は、とても50滴まで耐えることが出来ず、精々30滴留りである。水も飲まなくなつた。以前は水飲みで、一日1000ccも飲んだのだが、最近では精々3〜4百ccくらいである。要するに代謝が落ちてきたのである。

なんといつても困るのは、脳機能の衰えである。固有名詞はおろか普通名詞もなかなか頭に浮かんでこない。今勤めている老健という職場で

は、医師は看護師さんと相對して、「カルテ」と呼ばれている書類に書き込む業務が多い。ところがである。彼女らが見ている前で漢字の書き方が出てこないのである。そこで慌てたらおしまいであることは良く知っていて、「——という漢字、どう書くんだっけ？」と尋ねる。彼女らは嬉々として手のひらにボールペンで書いて教えてくれる。ただ、負け惜しみ臭いのだが、論理構造だけはそんなに崩れることなく残っていると思いたい。もつとも、論理は単語の組み合わせから成り立っているのだから、単語の記憶が崩れたのなら、そもそも論理は存在しえないことになるのだが——。

こんなゴジャゴジャ恨み節を並べる81歳の男がいる一方、世の中は様々で、「これから自分はまだまだ伸びていくのだ」と高らかに宣言する90歳のジャズピアノリストで、作曲家でもある秋吉敏子のような人間もいる。こんなことを言える人の顔は何とも若いのである。「歳をとっていくのは仕方ないが、それとは関

係なく、私はこれからもつと輝いていく」。テレビでこの話を聞いたとき、単純人間の私は、自分もそうなっているのではないかとつい思った。鬱々とした気持ちなどと言っても高々そんなものなのである。

## リズム

小西 剛史

「富士山に行ってみよう」「キャンピングカーに泊まってみたいよ」と常日頃言っていた小1の龍太。車中泊の何とも言えないワクワク感とドキドキ感を経験した人にしかわからないものです。『ぜひ、その好奇心旺盛な夢を叶えてあげたい!』と思いレンタルキャンピングカーサイトを検索、しかし……結構高い! 『これなら食事付きで旅館に泊まれるじゃないか!』ということ、家のワゴン車でワイルドに車中泊を!ということにしました。晩秋の金曜夕方、学校を終えた龍太、兄で小6の翔平、小4の礼を連れ、ワクワク

気分分で河口湖へ向けて出発!

道の駅に着く頃には辺りはもう真つ暗、近くのレストラで夕食。それぞれ好きなものを頼み楽しんでいました。が、なんだかいつもの外食とは雰囲気違います。だつて食後は家に帰るのではなく車に帰るんだから!

食事を終え、薄暗い道の駅の駐車場に停めた今宵の宿へ! 他にも宿泊してきた様子の立派なキャンピングカーが数台、こちらはただのワゴン車だけドキドキ感だけは負けないぞ!

車の中ではお菓子やジュースを片手にゲームを楽しむが、どこかそわそわ! 夜も更けてきたので「そろそろ寝るぞ」と伝え、シートを全部倒しマットレスと布団を敷き準備完了! ランタンを薄暗くし窓を少し開けて「おやすみなさい!」

「どんな状況でも物怖じせずグウグウよく寝るたくましい子どもたち(笑)」

実は子どもたちには秘密で、暗い時に現地に到着することで辺りの景色が見えない

まま朝を迎え、目覚めたら大きな富士山が! というサプライズのはずが……翌朝は濃霧。それは残念でしたが、何とも言えない爽やかな朝で、トイレで顔を洗い近くのコンビニで食事を買って車で食べながら富士山の五合目まで。霧も晴れ雄大な山を拝むことができました。

帰宅後も龍太は「楽しかった」「また行きたい」と目を輝かせて何度も思い出を語っており、本当に良い経験になったようです。

数日後に龍太の宿題を見ると、音読カードの裏にかわいい富士山の絵が描いてありました。

※追記  
2月23日(富士山の日)、同じメンバーで再び富士山方面へ行きました。今度は一泊旅行でした。

## 休載のお知らせ

近藤みちるさんの「共育ちカンガル日記」は、都合により休載いたします。



龍太の音読カードにかかれた富士山の絵



12月、市のイベントでウォールクライミングを体験。天井まである高い壁は怖かったから、低い方の壁で。

# アライグマの恨み

彫刻家 中島 睦雄

以前「訪問者」というタイトルで書かせていただいたことがある。そこでは「歓迎すべき訪問者と、歓迎すべからざる訪問者」を扱った。キジやタヌキは歓迎すべき訪問者なのだが、アライグマばかりは、どう考えても歓迎できない、としたと思う。

今回は、最近アライグマが家の中に入ってきて、大イタズラをしたことで起きた話である。

アライグマはどこからか入ってきては夜な夜な猫の餌を食いあさる。それだけなら良いが、わざわざと思わせるくらい餌の袋を破いてぶちまけたり、餌を食べるには関係ない周りの物までも破壊せんとはかりに荒らして行くのである。

しびれを切らした私は、役所の方に話して罫をお借りした。これは普通の針金より重い金属製のもので少々重

い。これを裏のアライグマの通りそうな所にセットしておいた。これがうまくいって次々と4匹も捕まえたのであった。ただし、これらの動物を勝手にどうにかしてはいけないということであつたので、役所に連絡をして引き取りに来てもらった。役所は専門業者に届けて対処してもらうとのことであつた。

そうだとしたら、直接ではないが、私がアライグマを追いつつては夜な夜な猫の餌を食いあさる。それだけなら良いが、わざわざと思わせるくらい餌の袋を破いてぶちまけたり、餌を食べるには関係ない周りの物までも破壊せんとはかりに荒らして行くのである。

「あのジジイ、大したイタズラをした訳でもないのに、我々の仲間を4匹も捕まえやがって」

しかし、私にとってはあのイタズラを放つてはおけない。しかも、もう1匹いるのである。そこでまた、役所から罫を借りて捕獲を試みた。

しかし、その罫の重さを甘く見て、中途半端な体勢で力を入れて持ち上げてしまった。その瞬間、腰にグギッ！と激痛が走る。ギックリ腰かと思つたが、並大抵の痛さではない。

這いつくばりながらも知り合いに連絡をして、車に横向きのまま乗せてもらい、病院へ行き、コルセットを作つて、松葉杖をお借りし、痛み止めの薬をもらつてきた。

病院で言われた通りに薬を飲んで静かに寝ていた。

しかし、何日経つても痛みが引く様子がない。入院を申し込んだが、不要であるときれ、家で痛み止めの薬だけを頼りに寝ていたが腰の痛みはむしろ強くなる一方である。食事とトイレの時にだけ起き、補助具を頼つて行くのであるが、テーブルの所に腰掛けているだけで耐えられないくらい痛い。したがって、食事といつても、ゆっくり食べさせてはもらえず、バナナを半分、ミカンを1個、甘酒を茶碗に1杯、そして痛み止めの薬を飲んで、逃げるようにベッドに戻り、そして痛みが一

番和らぐ仰向けになる。毎日毎日こんな日々を繰り返したが、痛みが全く引かないので、もうこのまま心臓が止まっても良いのに……と思つたことさえあつた。10月7日に痛めて、12月に入つても痛みは全く治まる様子はない。家には私1人、車の運転は今は出来ない状態。文字通りの独居老人そのものである。食べなくてはならないとは思いますが、寝てばかりいるので食欲は湧かない。

そんな、辛い毎日の中で、ひよんな事から、とある病院に良いドクターがいると聞き、息子が病院とやりとりをしてくれて12月2日に入院になった。

そこで調べた結果、脊柱の一部が潰れているとの診断であつた。それまで約2ヶ月間それが解らずに、痛みに苦しんでいたのであつた。やっと本来の治療の開始である。治療が始まると次第に嘘のように痛みが引いてきたが、喜んでいたらその翌日、今度は腰の筋肉あたりが痛くなつた。またまた痛みの日々である。しかし、こちらもほんの少し

ずつ痛みが和らいできて、約4ヶ月間の苦しみにやっと光が見えてきた。

この4ヶ月の苦しみは、アライグマの恨みによるものであるうと思うことにした。でも、家の中に入ってきて、大イタズラさえしなければ、こんなことにはならなかった筈なのだけれど……。  
本当に苦しい4ヶ月であった。

### プリズム

倉澤 智子

昨年11月、中3の樹里が倉澤家にやって来ることになりました。

そのことを倉澤家のメンバーに伝えると「まじか!」「え、今の平和な生活が脅かされるのか!」「新しく誰かが入って来るのってめんどくない!」との反応。

確かに、何か新しいことを始めたり、生活に大きな変化が生じた時には、大きなエネルギーが必要になり、緊張や不安を感じたり、生活のペースが乱されることもありま

れらのことを危惧していたのだと思います。そんな子どもたちの心配ももちろん理解できるのですが……。

どの子どもにも初めての日があります。そしてその時の怖さ、心細さ、不安も十分わかっているはずですが。そんな話をすると、「うん、まあね」「そうだったかもね」とそれぞれ初めての日を思い出したようでした。その後は、入所直後の嫌だったこと、うれしかったことなどの思い出話で盛り上がっていました。

11月13日。樹里が倉澤家に。彼女は少しでも早く倉澤家のメンバーと仲良くなろうと手作りのミサンガをプレゼントしていました。そんな彼女の気持ち伝わったのか、否

定的なことを言っていた子どもたちも、笑顔でミサンガを受け取り、彼女を快く受け入れてくれました。

倉澤家に来て3ヶ月が過ぎた彼女は、このところががんばり過ぎて疲れ気味です……。がんばっている彼女をしっかりと応援してしまい、更にがんばらせてしまっていたことに気づき、反省している担当者です。これからは、ちよつとがんばり過ぎじゃないの? ゆっくりでいいよ。と見守りながら、彼女にここに来て良かった、みんなと出会えて良かったという関係を作っていきたくと思っています。

### 困った表情



お正月のお出かけ。東武動物公園でひよこを抱く。



園庭の砂場にて。遊び帰って暖まり、1月にして既に半袖に。

## プリズム

佐藤 義岳

倉澤家と牧野家にニンテンドースイッチ（私物）を持ち込むことにした。テレビにつないで子どもと遊んでいる。

理由1。倉澤家4名中3名が高校生以上でスマホ持ち。夕食後は部屋にこもりがち。中学生がひとりになりがち。4人对戦できるものがあれば一緒に盛り上がるのでは。とマリオカート導入。なんと中学生の樹里がうまくいった。お姉様方にも驚かれる腕前。しかし高校入試が近くなり、自粛中。

理由2。牧野家、ゲーム機を持つ子が増えた。バラバラに遊ぶのは寂しい。テレビのチャンネル争いも激しいし。ボードゲームやってもテレビがついていると気が散るし。テレビ、パソコン、ゲーム、読書とそれぞれに過ごすのが楽しめるならばよいのだが、なぜか他に口を出してもめるし。ならばとここにもマリオカートを導入。威力は絶大。ゲームを早く

始めるために片付け、翌日の準備、ドライヤーなど速やかにする子が3名。トラブルが減る。ゲームの動きの早さに引く張られて不満の入り込む隙が減っているのだと思う。

プレイ中に皆よく声を出す。数々の迷言が生まれ、会話のネタになる。ほどよく遊んで満足したり、眠くなったりで自然に人数が減っていき、後は思い思いに過ごす。平和。ゲームは夕食後か雨降りの日。外で遊べる日は外遊び。最近のはやりは野球。体育でソフトボールをやった千暁がキャッチボールしようと言いだした。前にも柔らかいボールとプラバットで遊んだことはあったが、軟式B球と少年軟式用バットに。千暁は僕が高校で使った硬式用グラブを、人差し指を出して使う。なかなかうまくない。美樹と日向もやる。美樹は打撃の構えがよく、日向は打球が鋭い。

一緒にバツティングセンターに行くことも増えた。いずれはプロ野球観戦に連れて行きたい、と目論む佐藤（YSファン）と牧野（YBファン）である（自分たちが行きたいだ

けかもしれない？）。

## プリズム

穴水 祐介

私が子どもだった頃、父親からことあるごとに読書することの大切さを伝えられていました。あの頃はそうと理屈ではわかってはいても部活やサークル活動にのめり込んでいた私。読書の大切さを理解できたのはこの仕事を始めてから、子どもたちへの読み聞かせや学習指導として中高生たちと生き方について語り合うとき、職員会議で議論するときに多量と説得力のある話ができたらと自身の知識と教養のなさを痛感しました。子どもの頃に父親から何度も伝えられた「本を読め」ということを聞いて子どもの時から実践していたらと後悔をし、遅ればせながら読書を楽しんでいます。

そして今、原田家の子どもたちが夢中になっているユーチューブをはじめインターネットやゲーム機に依存する子どもたちに「デジタルデトックスをして本を読もう」と呼

びかけています。絵本や図鑑、中学生が興味をひくようにと映画化された文庫本などをダイニングルームに置いて声をかけます。年少児には芝居がかった読み聞かせをするなど、はじめは興味をしめしてくれましたが、すぐにゲームやネットの方に気持ちは移ってしまいます。それでも「読書はおもしろいよ」と声をかけ、私自身はみんなが集うダイニングルームで読書をする姿を見せています。先日中学生の楓が、「学校の休み時間はもっぱら読書をしているんだ。」「本を読むことは楽しい」と言い始めました。彼が読んでいるのはライトノベルのようなものですが、活字を読むことで小説の楽しさを感じ徐々に名作と呼ばれる作品に出会ってほしい。感性が豊かな中高生の時にたくさんの本と出会い心を育んでいてほしいと願っています。そのことが大人になったときに必ず役立つ時がくるのだから。私のように大人になつてから後悔しないように。

## 日誌抄

2019年12月

～2020年2月

## 【在籍児童数(2月末現在)】

幼児 7名 小学生12名  
 中学生6名 高校生7名  
 他 1名 計 33名

## 【2019年12月】

1日 第1アドベント礼拝と夕食会。ページェントの配役発表も。

8日 第2アドベント礼拝と夕食会。

12日 嘱託医にお越しいただき、2回目のインフルエンザ予防接種。

14日 芹沢美保様のご招待で牛久のハンドベルコンサートへ。

15日 第3アドベント礼拝と夕食会。泗水学園(栃木県)職員研修受入終わる。

16日 藤岡孝志教授(日本社会事業大学)による職員研修。

21日 SUGIZO様の招待でLUNA SEAクリスマスコンサートへ。

22日 第4アドベント礼拝と

夕食会。佐野正子牧師(東京女子大学教授)によるご奉仕。

24日 クリスマスイブ夕食会と燭火礼拝(キャンドルサービス)。

25日 クリスマスページェント(聖誕劇)と祝会。友人、お客様多数来訪。

26日 家族・親戚宅への帰省が始まる。また、卒園生や元職員が光の子どもの家に来たり、泊まつたりも始まる。

27日 餅つき。子どもたちも小さな杵で餅をつく。

31日 大晦日。各家コタツを用意し2019年最後の夜を楽しむ。

## 【2020年1月】

1日 元旦礼拝と新年祝会。子ども、職員、卒園生それぞれ新年の抱負を発表。夕方には卒園生新年会。

2日～5日 各家それぞれに外出。東武動物公園、むさしの村、映画鑑賞など。

6日 正月気分を吹き飛ばそう会。すき焼きを食す。夏にお世話になった赤城ハイブルキャンプの方々が来ら

れ、宿泊。

14日 東京家政大学より実習生受入(～30日)。

17日 後援会によるうどん玉作り。安田君祈念礼拝。県立高校願書提出。

18日 後援会によるがんばろう会。

20日 1月生まれの誕生会。

22日 藤岡孝志教授による職員研修。

24日 木田浩靖牧師(東埼玉バプテスト教会)による夕礼拝。

31日 若月健悟牧師(守谷教会)による職員礼拝。火災を想定した通報避難訓練。

## 【2月】

3日 節分。恵方巻きを食べる。「鬼滅の刃」の影響で

鬼を倒す気満々の子どもたち。例年通り泣く子がいたり、去年まで泣いていた子がたくましく豆を投げたり。伝統行事を通じた成長。

6日 本園を設計した増田政一設計士にお話をうかがう。35年目になり必要な修繕、子どもの生活環境改善、更なる小規模化や地域

化など、検討課題が山積。

17日 2月生まれの誕生会。埼玉県立大学と埼玉学園大学の実習生受入(～3月2日)。

19日 (株)なとり様より寄贈の衣類乾燥機を設置。以前寄贈していただいたものと合わせて2台体制となる。

23日 富士山方面へ一泊旅行(5ページ参照)。

27日 職員4名が堀川愛生園見学へ。施設改築の理念、改善点、改築中の生活についてなどがう。

28日 新型コロナウイルス対策のため、翌週から小中高校が休校となること発表される。

## 【寄贈者各位】

阿久津貞夫 朝倉桂子 井上信生 太田澄子 大橋清栄  
 長田美紗子 小澤喜代子 落合洋平 尾野明子 梶山ジュニア 金久保公男 金子智幸  
 金子光代 小池みどり 木暮伸二 小西恭子 桜井俊一  
 櫻井秀夫 佐藤尚子 須賀美智子 仙道喜美子 高尾和子  
 谷章子 蔦保誉恵 根岸亜麗 朱 浜田文昭 樋口華 樋口

広美 門司一徹 山田智 山田裕子 吉羽良美 和田宏之 渡辺敏夫 王子教会 大利根 ふじこども園 カーブス 鴨川会 しほや 女子学院中高 宗教委員会 セカンドハーベスト 全ヤオコー労働組合 高橋会計事務所 茅ヶ崎同盟教会 チュチュアンナ (株) テイ・エスロジステイクス 東洋英和女学院大学保育科 富田農園 (株) なとり 日本鏡餅組合 ネットトヨタ東埼玉 ネパリ・バザーロ 藤沼畜産 東埼玉バプテスト教会 へいさち親子歯科 ほつともつと 事業本部 毎日新聞東京社会事業団 マルキチ物産 マルハン古河店 (株) ヤクルト 米沢興譲教会(敬称略)

他多数の皆様

【ボランティア各位】

岡本有代 木田智恵子 木田浩靖 久保田修 佐野正子 常松洋介 向井進 山田智 山田裕子 山田義人 光の子どもの家後援会(敬称略)

他多数の皆様

反射光

2月下旬に原稿が集まり、編集作業を始めたところで、新型コロナウイルスの影響が。市立小中学校、県立高校が3月2日から休校、幼稚園も4日から休園。例年と違う突然の長期休み、外出らしい外出もできず、市立図書館等公共施設は子どもの入館に「自粛要請」▼不要不急の外出は控えよと言っても、こもつてばかりではストレスがたまり、体力も落ちてしまう。人混みは避けつつ、公園など屋外の遊び場で体を動かす、食材の買い出しに行くなど、職員が付き添って出かける機会をもつようになっています。手洗い・うがいの徹底など、感染予防の対策は図りつつ▼何を根拠に対策が取られ、先行きがどうなるのか。事態が収束した後の生活はどう変化するか。そして、全国的に子どもがいられる場所が閉じられたいま、家に居場所のない状況に追い込まれている子どもたちはどうしているのか、心配でなりません。(義)

お知らせ

2020年6月6日(土)に  
2020年度“小さくても大バザー”を予定しています。  
バザー用品のご協力をお願いします。

～光の子どもの家バザー委員会～

【発行】社会福祉法人 光の子どもの家 【住所】〒349-1155 埼玉県加須市砂原277-3  
【電話】0480-72-3883 【FAX】0480-72-6649 【メール】hikarinoko@ceres.ocn.ne.jp  
【Webサイト】http://www.hikarinokodomonoie.com/ 【振替】00130-1-128022  
【印刷】(株)エル・アートデザイン